

第32期 (2012年6月期)

第1四半期連結業績説明資料

2011年 11月

株式会社

ドンキホーテ

Don Quijote Co.,Ltd.

専務取締役 CFO 兼 CCO 高橋 光夫

〒153-0042 東京都目黒区青葉台2-19-10

TEL 03-5725-7588 FAX 03-5725-7024

<http://www.donki.com>

e-mail : takahashi@donki.co.jp

ドン・キホーテ純利益2.2倍

11年7～9月期

ドン・キホーテが4日に発表した2011年7～9月期の連結決算は、純利益が前年同期比2.2倍の67億円と四半期最高益を更新する大幅増益となった。売上高は8.1%増収の1,349億円だった。「節電」や「エコ」が叫ばれた夏商戦で顧客ニーズをくすぐる商品構成と絶妙な価格設定が効いた。顧客層の安定した支持の下で新規客の獲得も進んでいることから、ドン・キホーテ既存店は2.1%増収と好調が続く。また「MEGA」店が9割を占める長崎屋も14.1%増収と絶好調だった。増益幅も高い。販売好調に伴う人員増を実施したものの、コストコントロールを有効に機能させた結果、営業利益は13.1%増益の78億円、経常利益は15.3%増の74億円となった。7～12月期の業績予想を上方修正した。売上高2,720億円（従来予想は2,700億円）、営業利益152億円（同147億円）、経常利益149億円（同146億円）、純利益100億円（同78億円）としたが、同期間における上方修正は3年連続となり、同社業績に対する期待が高まる。

DON QUIJOTE



2012年6月期 1 Q 決算概況

- ✓決算業績概況
- ✓事業別業績概況
- ✓主な資産、負債、純資産の状況
- ✓四半期業績推移
- ✓セグメント情報
- ✓キャッシュフロー、設備投資の状況

ドン・キホーテグループトピックス

- ✓月次販売の状況
- ✓出店状況
- ✓MEGAの進捗状況
- ✓プライベートブランド商品
- ✓フィデックの状況

2012期6月期 業績予想

本資料における記載金額は、単位未満を四捨五入して表示しております。

1.1 Q業績概況

1Q決算は、予想を上回る増収増益で着地！

- ▶ 電力供給不足による悪影響が懸念され、足踏みが続く消費環境のなかで、顧客ニーズの変化を予知した品揃えと価格訴求で、前年ハードルが高かった夏商戦を予想以上の進捗。
- ▶ 旬のテーマを見逃さない情報発信力はますます強化され、柔軟な機動力と高い競争力を持った営業体制の下、新規顧客を含めた来店客数は好調に推移し、増収に伴う変動費増加分などを吸収して、営業利益率は0.3pt、経常利益率は0.4pt改善し、MEGA店も「収穫期」に突入。
- ▶ 消費動向に影響を及ぼす外的要因が、短サイクルで現われた商環境で、商品ポートフォリオの積極的な組み替えが奏功。さらにPB商品を中心にした商品提案力に磨きをかけて、お客さまリピート率を安定させたため、収益力は向上。
- ▶ これらのことから、1Q連結業績は、売上高1,349億円（前期比8.1%増）、営業利益78億円（同13.1%増）、経常利益74億円（同15.3%増）及び純利益67億円（同116.3%増）と予想を上回る大幅増収増益で着地。

2.業績見通し

2Q累計業績予想を上方修正！

- ▶ 1Q業績の進捗状況を前提にした2Q累計期間の業績見通しは、売上高2,720億円（前期比6.5%増）と従来予想比20億円増額し、営業利益は同5億円増の152億円（同7.1%増）、経常利益は同3億円増の149億円（同6.2%増）及び純利益は同22億円増の100億円（同32.5%増）とそれぞれ上方修正。
通期の業績予想は、2Q決算発表時（2012年2月6日）に従来予想を見直した上で、公表する予定。

「エクイティファイナンス」を実施する予定はありません！

- ▶ 設備投資資金などに充当する資金については「デット」による調達を実施済、または今後の計画に織り込んでいます。従って「エクイティ」による調達を実施する予定はありません！



1Q決算業績サマリー

【期間：2011年7月1日～2011年9月30日】

(単位：百万円)

連結実績	1 Q 実 績				前1Q 実 績		2Q累計 公表予想 ※1	
	金 額	百分比	前期比	進捗率	金 額	百分比	金 額	百分比
売 上 高	134,863	100.0%	108.1%	49.9%	124,716	100.0%	270,000	100.0%
売上総利益	34,837	25.8%	108.6%	50.9%	32,089	25.7%	68,400	25.3%
販 管 費	27,056	20.1%	107.3%	50.4%	25,208	20.2%	53,700	19.9%
営業利益	7,781	5.8%	113.1%	52.9%	6,881	5.5%	14,700	5.4%
経常利益	7,405	5.5%	115.3%	50.7%	6,422	5.1%	14,600	5.4%
当期純利益	6,674	4.9%	216.3%	85.6%	3,085	2.5%	7,800	2.9%
1 株 利 益		86.64円	202.5%	85.6%		42.78 円		101.26 円

個別実績	1 Q 実 績				前1Q 実 績		(参考予想)	
	金 額	百分比	前期比	進捗率	金 額	百分比	金 額	百分比
売 上 高	92,051	100.0%	107.2%	50.6%	85,833	100.0%	182,000	100.0%
売上総利益	23,224	25.2%	107.3%	—	21,642	25.2%	—	—
販 管 費	17,462	19.0%	106.1%	—	16,453	19.2%	—	—
営業利益	5,762	6.3%	111.0%	51.4%	5,189	6.0%	11,200	6.2%
経常利益	5,396	5.9%	110.5%	48.6%	4,883	5.7%	11,100	6.1%

※1. 連結業績予想は、2011年8月18日に公表したものであります。

※2. 進捗率は第2四半期累計期間に係る業績予想に対する進行割合を表しております。

1Q連結業績概況コメント

▶ **連結売上高：1,349億円（前期比8.1%増）。**

広告宣伝に頼らない独自の営業戦略を駆使しながら、権限委譲体制を存分に発揮した強い現場力を持って、顧客の支持基盤を高めたことから、DQ既存店は2.1%増（全社7.2%増）、MEGA店中心の長崎屋は14.1%増と、猛暑・台風など天候面のインパクトは大きかったものの、好調に推移。

▶ **当1Q末店舗数：229店（前期末228店）。**

新規出店2店（DQ1店、エッセンス1店）、長崎屋の業態転換1店、閉鎖1店。

▶ **連結売上総利益：348億円、同率：25.8%（前期比0.1pt改善）**

震災以降の動向や消費マインドを考慮して、「日用雑貨品」や「食品」などのコモディティ商品を推奨する販売施策を採るものの、現場主義によるきめ細やかな対応により、売上総利益率は0.1pt改善。

▶ **販管費：271億円（同7.3%増）、販管費率：20.1%（同0.1pt改善）**

好調な販売動向から人員強化策を進め、さらに政策的な費用投下を行うものの、コストコントロールが適切に機能した結果、販管費は売上総利益増加率を下回る。

▶ **これらのことから、営業利益78億円（同13.1%増）、経常利益74億円（同15.3%増）とも前実・予想を大幅に上回って着地。**

▶ **債務免除益18億円などの計上により、当期純利益は67億円（同116.3%増）と、四半期最高益を更新。**



1Q連結業績概況

(単位：百万円)

	当1Q		前1Q		前期比
	金額	百分比	金額	百分比	
売上高	134,863	100.0%	124,716	100.0%	108.1%
売上総利益	34,837	25.8%	32,089	25.7%	108.6%
販管費	27,056	20.1%	25,208	20.2%	107.3%
給与手当	9,172	6.8%	8,514	6.8%	107.7%
地代家賃	4,544	3.4%	4,549	3.6%	99.9%
支払手数料	3,085	2.3%	2,963	2.4%	104.1%
減価償却費	2,172	1.6%	2,089	1.7%	104.0%
その他	8,082	6.0%	7,093	5.7%	114.0%
営業利益	7,781	5.8%	6,881	5.5%	113.1%
経常利益	7,405	5.5%	6,422	5.1%	115.3%
当期純利益	6,674	4.9%	3,085	2.5%	216.3%
1株当たり純利益	86.64円		42.78円		202.5%

1Q事業別業績概況コメント

▶リテール事業1,296億円（前期比8.2%増）

* 「家電製品142億円（同10.6%増）」

アナログ停波に伴う地デジ関連商品の特需と反動が大きく現れた一方で、季節家電に係る販売実績はポジティブな推移。

* 「日用雑貨品」294億円（同11.3%増）」

旬のニーズを取り込んだ商品群が、お客さま支持を活発に新たな需要創造。さらに化粧品などの理美容関連商品も好調を持続。

* 「食品」371億円（同9.7%増）」

日配品・グロッサリー・加工食品などは、安定した販売状況が続き、前年の猛暑特需の反動が現れた飲料水も健闘。

* 「時計・ファッション用品」286億円（同5.1%増）」

時計や輸入ブランド品など高額商品の販売が復調し、一時の緊縮消費が和らぐ。機能性下着などがヒットした半面、カジュアル衣料は苦戦。

* 「スポーツ・レジャー用品」94億円（同4.8%増）」

震災の影響が癒えない環境下で、天候面でもマイナス影響を受ける。

* 「DIY用品」47億円（同9.9%増）」

震災の影響から補修資材は活発に推移するが、新生活関連の商機が遅れる。園芸関連は、節電対応商品（日除け・グリーンカーテンなど）が好評。

* 「海外（ハワイ）」31億円（4店から3店に減少したことと超円高下の換算のため、同20.0%減）」

青果・グロッサリーなど原価高騰の影響を受けた商品がある一方で、地元企業にない品質と接客力で、惣菜や鮮魚を中心とした食品の顧客支持率が高い。特に日本プロダクト商品が好評。

なお、既存3店はUSドルベースで5.0%増収。（ご参考：当1Q1\$ = 81.2円、前1Q=91.4円）

▶テナント賃貸事業40億円（同0.3%増）

一部のテナント事業者の撤退や縮小及びMEGA店展開のための営業期間ロスやテナント数減少のため微増収。

1Q事業別業績概況

(単位：百万円)

	当1Q		前1Q		前期比
	金額	構成比	金額	構成比	
リテール事業	129,625	96.1%	119,844	96.1%	108.2%
家電製品	14,185	10.5%	12,828	10.3%	110.6%
日用雑貨品	29,441	21.8%	26,455	21.2%	111.3%
食品	37,113	27.5%	33,840	27.1%	109.7%
時計・ファッション用品	28,604	21.2%	27,222	21.8%	105.1%
スポーツ・レジャー用品	9,411	7.0%	8,981	7.2%	104.8%
DIY用品	4,693	3.5%	4,271	3.4%	109.9%
海外	3,139	2.3%	3,921	3.2%	80.0%
その他商品	3,039	2.3%	2,326	1.9%	130.7%
テナント賃貸事業	3,977	3.0%	3,966	3.2%	100.3%
その他事業	1,261	0.9%	905	0.7%	139.4%
合計	134,863	100.0%	124,716	100.0%	108.1%

※報告セグメントについては、「セグメント情報等の開示に関する会計基準」及び「同 運用指針」を適用し、「リテール事業」と「テナント賃貸事業」としております。

主な資産の状況

(単位：百万円)

	11年9月	11年6月	増減額
流動資産	140,603	134,515	6,088
現預金	40,846	35,031	5,815
商品	81,027	81,582	▲555
固定資産	214,757	206,785	7,972
建物等	57,749	58,056	▲307
土地	93,766	87,187	6,579
敷金保証金	32,508	33,303	▲795
資産合計	355,360	341,300	14,060

主な資産の状況

- ▶ **総資産：3,554億円**
(前期末比141億円増)
主な増加要因は、現預金59億円及び出店に伴う有形固定資産68億円など
- ▶ **現預金：408億円** (同58億円増)
当期における設備投資資金及び過年度調達分の返済資金を銀行借入れにより調達
- ▶ **商品：810億円** (同6億円減)
販売動向を見据えて、家電製品在庫を抑制したため
- ▶ **固定資産：2,148億円** (同80億円増)
新規出店2店、業態転換1店及び次期以降の出店用地獲得のため

主な負債・純資産の状況

(単位：百万円)

	11年9月	11年6月	増減額
流動負債	111,491	106,071	5,420
買掛金	43,700	42,430	1,270
短期負債 ^{※1}	47,631	39,631	8,000
固定負債	111,697	109,987	1,710
社債等 ^{※2}	57,070	58,379	▲1,309
長期借入金	42,112	35,570	6,542
負債合計	223,188	216,058	7,130
純資産合計	132,172	125,242	6,930
負債・純資産合計	355,360	341,300	14,060

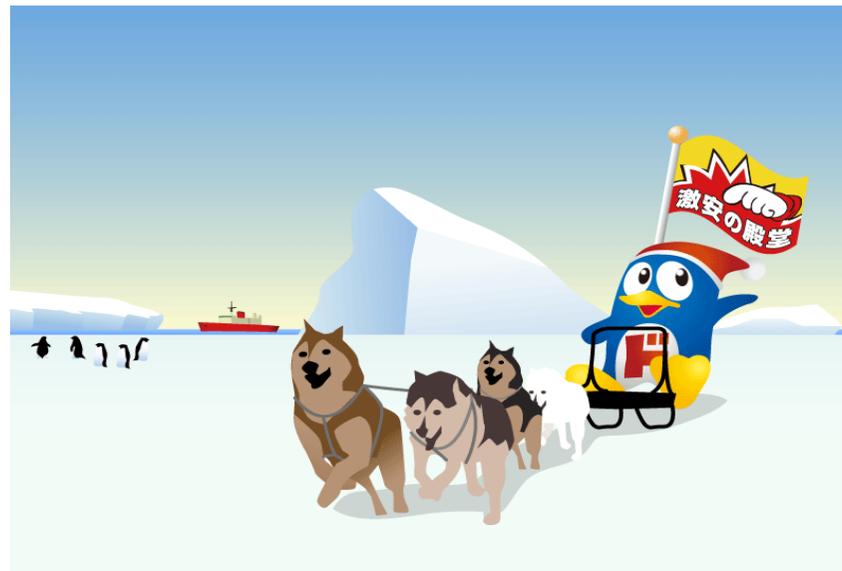
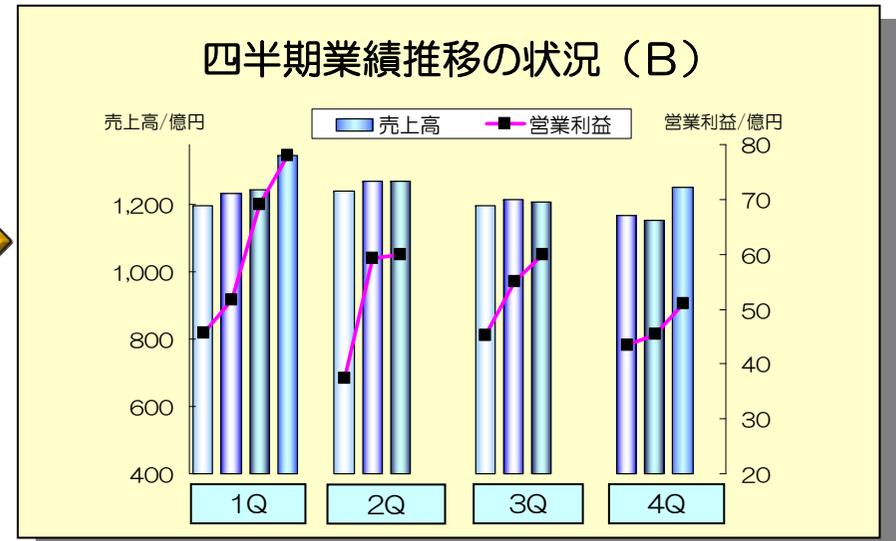
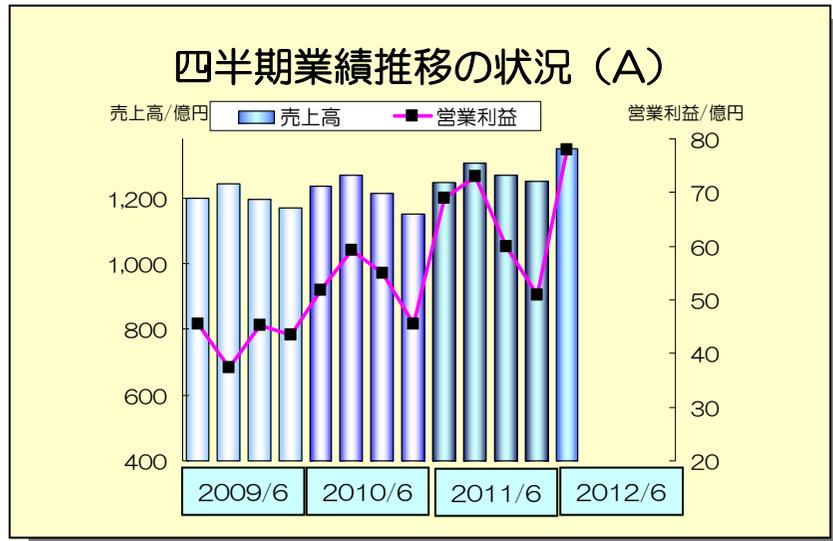
主な負債・純資産の状況

- ▶ 負債合計：2,232億円（同71億円増）
主な増加要因は、短期借入金52億円、長期借入金65億円など
- ▶ 有利子負債：1,468億円
（同132億円増、依存率41.3%）
（うちフィデック151億円）
10月にSB（5年債）80億円を発行
- ▶ 純負債：1,059億円（同73億円増）
- ▶ D/Eレシオ：111.1%
（フィデック除き101.1%）
- ▶ インタレスト・カバレッジ・レシオ：19倍
- ▶ 純資産：1,322億円
（同69億円増、自己資本比率36.7%）

※1 短期負債＝短期借入金、1年内返済予定の長期借入金、1年内償還予定の社債、同転換社債

※2 社債等＝社債、転換社債

四半期業績推移



その情熱には、
時代を変える力がある

セグメント情報

主力の「リテール事業」のセグメント利益は8.6%増の59億円、
「テナント賃貸事業」は微増収ながらも4.0%増の13億円といずれも順調！！

当1Qセグメント概要

(単位：百万円)

	リテール事業 ※	テナント賃貸事業	その他事業	計	調整	連結
外部売上高	129,625	3,977	1,261	134,863	—	134,863
内部取引等	1	720	449	1,170	▲1,170	—
計	129,626	4,697	1,710	136,033	▲1,170	134,863
セグメント利益	5,943	1,289	488	7,720	61	7,781

前1Qセグメント概要

(単位：百万円)

	リテール事業 ※	テナント賃貸事業	その他事業	計	調整	連結
外部売上高	119,844	3,966	906	124,716	—	124,716
内部取引等	—	624	224	848	▲848	—
計	119,844	4,590	1,130	125,564	▲848	124,716
セグメント利益	5,473	1,240	116	6,829	52	6,881

※報告セグメントについては、「セグメント情報等の開示に関する会計基準」及び「同 運用指針」を適用し、「リテール事業」と「テナント賃貸事業」としております。
Don Quijote Co., Ltd. 1Q results of FY2012.

キャッシュフロー&設備投資の状況

(単位：百万円)

	当1Q	前1Q	増減額
1.キャッシュフローの状況			
期首残高	26,875	38,911	▲12,036
営業活動CF	4,853	5,974	▲1,121
投資活動CF	▲15,637	▲19,071	3,434
財務活動CF	9,553	12,466	▲2,913
期中増減等	2,256	▲911	3,167
期末残高	29,131	38,000	▲8,869

2.設備投資の状況

設備投資額	4,277	2,770	1,507
キャッシュフロー [※]	7,741	5,179	2,562
差引	3,464	2,410	1,054

※キャッシュフロー＝純利益＋減価償却費＋特別損失－配当金

キャッシュフロー

<営業CF>

▶税金等調整前純利益93億円に減価償却費24億円などが増加要因となる一方で、たな卸資産19億円及び税金支払額43億円が減少要因となったことなどから、49億円の収入

<投資CF>

▶出店に伴う有形固定資産の取得51億円一方で、定期預金の預け入れ純増加額46億円及び連結範囲の変更を伴う子会社株式の取得64億円などにより、156億円の支出

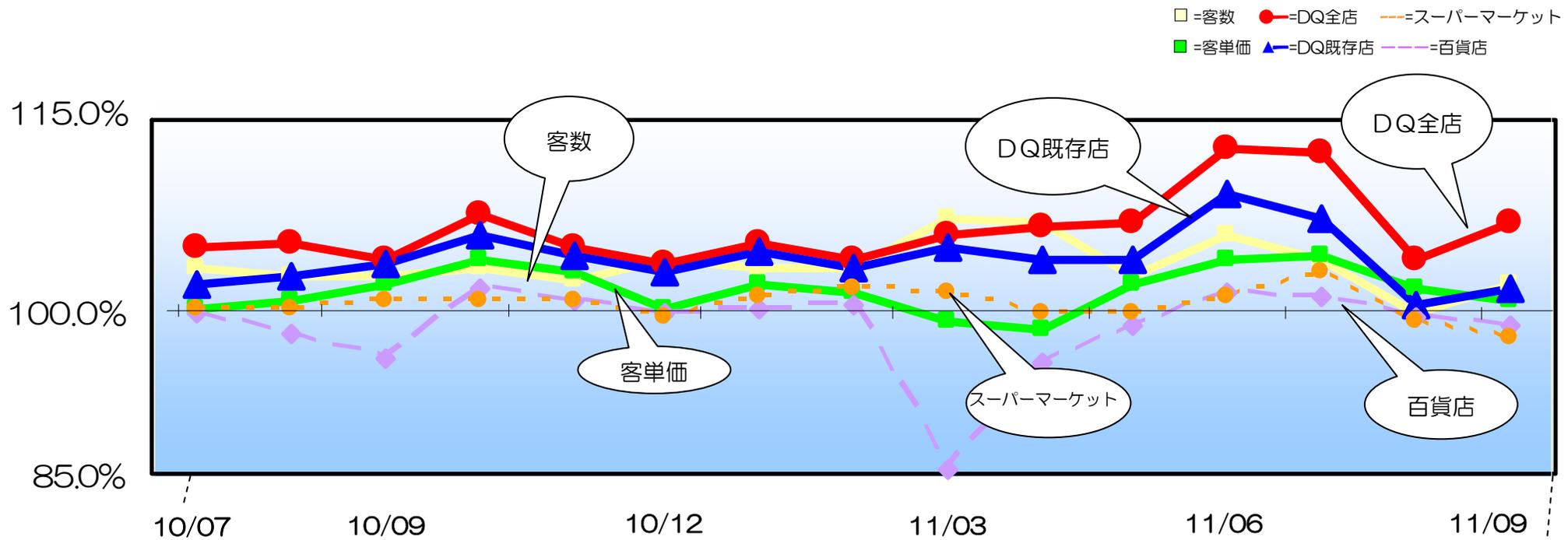
<財務CF>

▶銀行調達及び社債発行による純増加額135億円一方で、配当金支払額14億円及び更生担保権の返済26億円などにより、96億円の収入

設備投資

設備投資は43億円（DQ17億円、長崎屋5億円など：敷金保証金回収などを考慮した純増加額は39億円）となるものの、キャッシュフローを78億円獲得したため、フリーキャッシュフローは35億円。

月次販売高の状況 (DQ)



既存店	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
売上高	101.2%	101.6%	102.8%	105.4%	103.5%	102.0%	103.7%	102.6%	104.2%	103.3%	103.0%	108.8%	106.7%	99.2%	100.8%
・客数	102.4%	101.9%	101.7%	102.4%	101.3%	103.1%	102.6%	102.4%	106.5%	106.4%	101.7%	105.4%	103.1%	98.7%	100.9%
・客単価	98.9%	99.7%	101.0%	103.0%	102.1%	99.0%	101.1%	100.2%	97.9%	97.1%	101.2%	103.2%	103.5%	100.6%	99.8%
対象店舗数	153店	153店	151店	153店	153店	155店	155店	155店	156店	156店	157店	158店	158店	160店	160店



消費動向を反映して、「日用雑貨品」や「食品」が堅実、かつ安定した推移を見せている中で、「節電」「エコ」「涼感」などをキーワードにした商品群が高い支持を集めた結果、DQ既存店伸長率は2.1%増（客数0.8%増、客単価1.4%増）と予想を上回る伸びを示す。

当期出店状況

フォーマット別店舗数

	2010年 6月期	2011年 6月期	2012年 6月期1Q
ドン・キホーテ	144	149	150
パウ	※1		
ピカソ	11 ※2	11	12
MEGA	32 ※3	43	44
海外(ハワイ)	4	3	3
ドイト	12	16	15
長崎屋	17	6	5

法人別店舗数

ドン・キホーテ	162	169	171
長崎屋	42	40	40
ドイト	12	16	15
DQUSA	4	3	3
合計	220	228	229

- ※1. 店舗業態コンセプトを同じくする「ドン・キホーテ」及び「パウ」は、「ドン・キホーテ」に集約表記しております。
- ※2. 「ピカソ」には「ピカソ」及び「エッセンス」が含まれております。
- ※3. (株)長崎屋が運営する業態転換店は、すべて「MEGA」に含まれております。
- ※4. 上記の他に、震災の影響により1店舗を閉鎖しております。

MEGAドン・キホーテ 八王子駅前店
2011.7.1 Fri



MEGADonQuijote

i'm lovin' MEGA

エッセンス川口駅前店
2011.7.29 Fri



ドン・キホーテ高田馬場駅前店
2011.7.15 Fri



当期ハイライト

既存店競争力及び収益力強化策を採りながら、グループネットワークを15店程度拡大予定。
当1Qの新規出店はDQ1店・エッセンス1店の2店、長崎屋のMEGA化1店。
今後は「収穫期」に入った「MEGA」店をさらにブラッシュアップ。

	1 Q	2 Q	3 Q	4 Q	
D Q	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">高田馬場駅前</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">川口駅前</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">中州</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">上田</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">宇品</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">豊田</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">長岡インター</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">町屋</div>			
長崎屋	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">八王子駅前</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; background-color: #e0f0ff;">既存「MEGA」店を適時改装（15～16店予定）</div>			
ドイト					

コミットメント
ライン設定

SB80億円
発行

= 新店

= MEGA

= ドイト

= essence

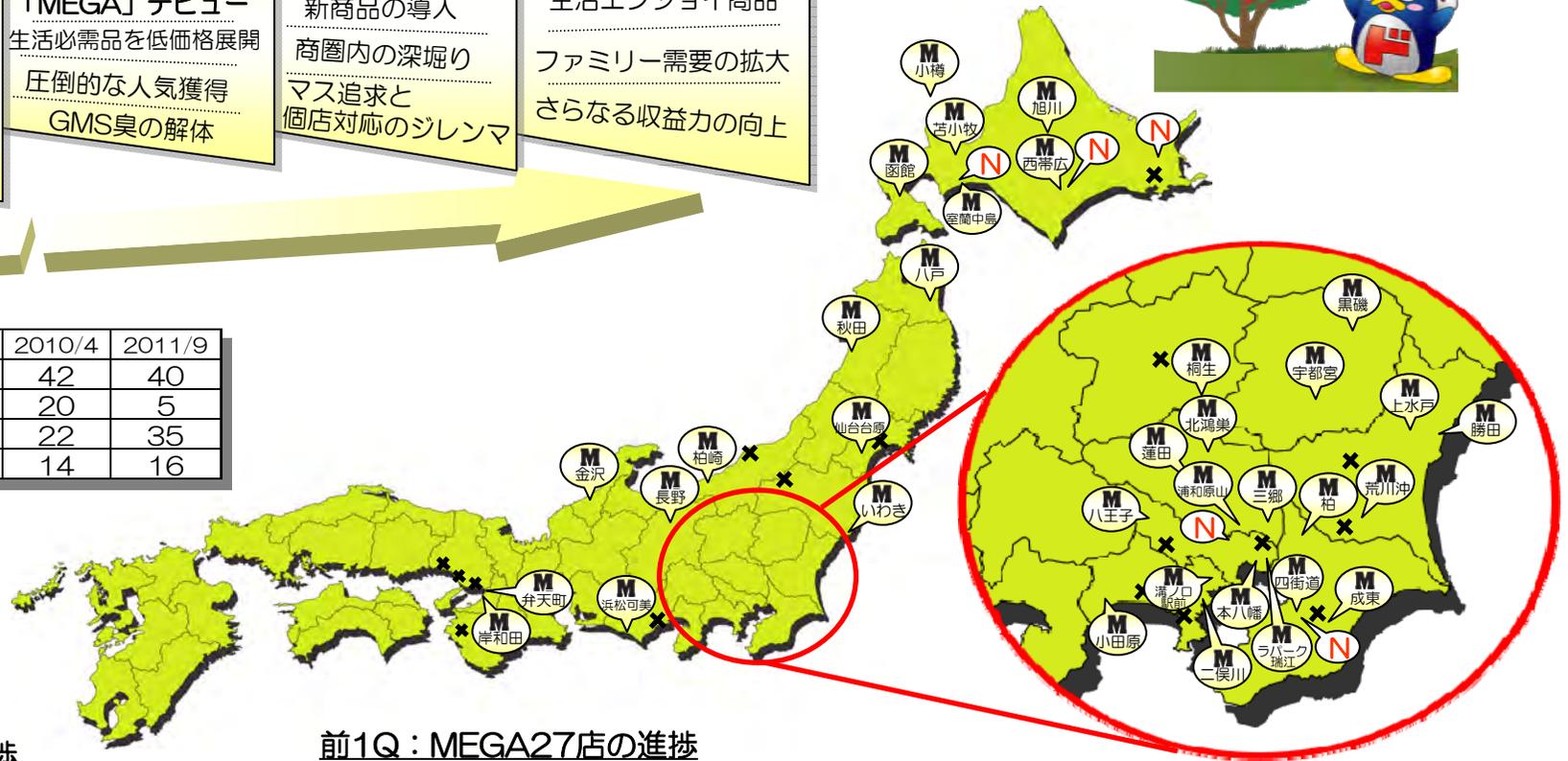
長崎屋復活計画 Ver.5

テーマ	2007年10月 長崎屋 子会社化	2008年6月～ 驚安の殿堂 「MEGA」デビュー 生活必需品を低価格展開	2009年9月～ MD改廃と有機質化 新商品の導入 商圏内の深堀り マス追求と 個店対応のジレンマ	2010年7月～ 大衆型DS& 感性型DSの融合 生活エンジョイ商品 ファミリー需要の拡大 さらなる収益力の向上
MD	—			
効果	店舗ネットワークの拡大	圧倒的な人気獲得		
課題	いかにして再生するか	GMS臭の解体		



<店舗数の推移>

	2008/4	2009/4	2010/4	2011/9
営業店舗数	56	48	42	40
GMS長崎屋	56	35	20	5
MEGA/DQ	0	13	22	35
閉鎖	0	8	14	16



当1Q : MEGA35店の進捗

(11年 7月-9月)		(10年 7月-9月)	
売上高成長率	116.2%	21.3%	
粗利益率	22.0%	20.4%	
販管費率	18.7%	7.4%	
・人件費率	7.0%	1.8%	
・償却費率	1.6%	0.9%	
営業利益率	3.3%		

前1Q : MEGA27店の進捗

(10年 7月-9月)		(09年 7月-9月)	
売上高成長率	113.4%	20.8%	
粗利益率	20.9%	19.7%	
販管費率	19.3%	7.7%	
・人件費率	7.1%	1.9%	
・償却費率	2.1%	1.1%	
営業利益率	1.6%		



11月 新商品特集



録画機能付
19型LED液晶テレビ



形態安定 白長袖Yシャツ



26型パンクしにくい自転車
(外装6段ギア、オートライト)



ヤコブセンズ デンマーク
パタークッキー200g



ペットベッド



ボディソープ



MEMOTREE
←スパイラルノート
小、長、大

さあ 冬じたく



ハイブリッド加湿器



窓に貼るだけ ウォームシェード



メンズ2足組吸湿発熱
ロングソックス



ファー付きタウンサンダル

サンタさんを迎えよう

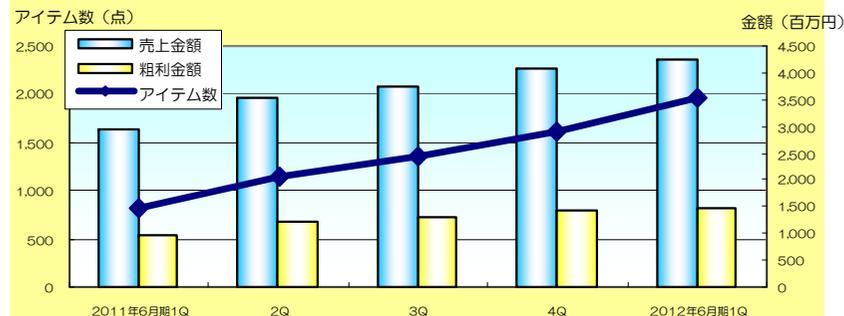


BIGエアーマスコット
サンタ、スノーマン



選べる
カラーツリー

<四半期毎 販売状況推移>



JNK48 総選挙速報 (神8)

じょうねつかかく (売上高ランキング)

順位	商品名
第1位	24型DVD内蔵LEDテレビ
2位	単3形 アルカリ電池
3位	アツアツごはん
4位	フィッシュソーセージ
5位	16型LED液晶テレビ
6位	Natural Organic Cleansing Oil
7位	極氷
8位	ジャンボバスタオル



今期もより一層の情熱を持ってみなさまのご期待にお応えするぞー

オー！！

当期の施策と業績予想

お客さま満足の最大化を追求しながら、継続的な成長と安定を目指す！

1. グループ：事業効率のさらなる改善を進め、お客さま支持率の高い店舗運営を促進
2. 営業方針：業態創造と変化対応
既存店活性化策を推進し、商圈内競争力をますます強化
お客さま層拡大に対応した、サービスレベルの改善と向上
3. 商品戦略：消費マインドの変化を迅速にとらえた商品ポートフォリオの改廃と進化
生活必需品の品揃え強化と徹底したEDLPの推進
PB「情熱価格」ラインナップの拡充（新機能・こだわり商品など）
4. 店舗戦略：設備投資額予想：300億円
新規出店15店+α、出店地域の拡大、MEGA店の収益力アップ
DQ既存店の予想：上半期=1.0%増、下半期=1.0%減、通期=0.0%増
5. 財務戦略：バランスシートの改善と資金効率の向上
設備投資資金はデット調達を有効活用
年間配当金予想28円（第2四半期末10円）

お客さまに
ご利益を！



<通期予想>

<前期実績> (単位：百万円)

	金額	百分比	前期比	金額	百分比
売上高	528,900	100.0%	104.2%	507,661	100.0%
売上総利益	134,000	25.3%	103.8%	129,074	25.4%
販管費	107,000	20.2%	103.1%	103,738	20.4%
営業利益	27,000	5.1%	106.6%	25,336	5.0%
経常利益	26,800	5.1%	106.6%	25,138	5.0%
当期純利益	14,000	2.6%	110.6%	12,663	2.5%
1株当たり純利益	181.75円	—	108.3%	167.82円	—

※通期の業績予想は、2Q決算発表時に当該予想を見直した上で、公表する予定としております。お楽しみに！

第2四半期の連結業績予想



1Q業績の進捗状況から、8月18日に公表した以下の2Q累計期間における業績予想を修正します。

(単位：百万円)

	修正予想			前回予想		前期実績	
	金額	百分比	前期比	金額	百分比	金額	百分比
売上高	272,000	100.0%	106.5%	270,000	100.0%	255,481	100.0%
売上総利益	70,300	25.8%	106.7%	68,400	25.3%	65,874	25.8%
販管費	55,100	20.3%	106.6%	53,700	19.9%	51,681	20.2%
営業利益	15,200	5.6%	107.1%	14,700	5.4%	14,193	5.6%
経常利益	14,900	5.5%	106.2%	14,600	5.4%	14,031	5.5%
当期純利益	10,000	3.7%	132.5%	7,800	2.9%	7,549	3.0%
1株当たり純利益	129.81円	—	127.2%	101.26円	—	102.03円	—

「お客さま第一主義」と「企業価値の拡大」を追求し、引き続き増収増益決算を目指します。

フィデック2Q決算業績

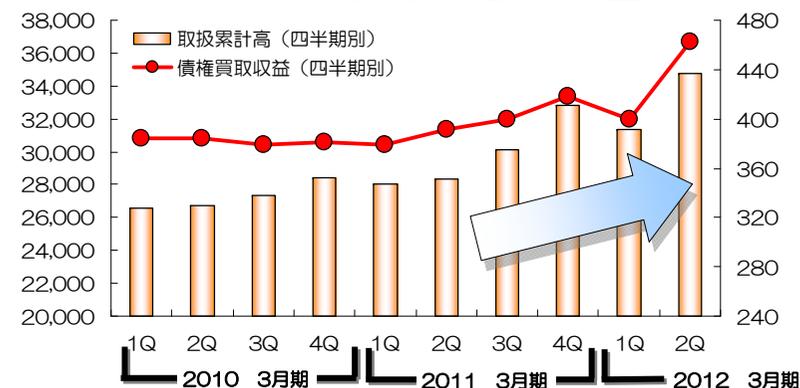
(単位：百万円)

【PL概況】	当2Q (11年 4月1日～9月30日)			前2Q (10年 4月1日～9月30日)	
	金額	百分比	前期比	金額	百分比
取扱累計高	66,048	—	117.1%	56,398	—
営業収益	1,262	100.0%	116.2%	1,086	100.0%
債権買取収益	861	68.2%	111.7%	770	70.9%
業務受託収益	401	31.1%	127.3%	315	29.0%
その他収益	0	0.0%	31.2%	1	0.0%
金融費用	158	12.5%	89.9%	176	16.2%
販売管理費	704	55.8%	102.0%	690	63.5%
営業利益	400	31.7%	181.9%	220	20.3%
経常利益	409	32.4%	168.0%	244	22.4%
当期純利益	397	31.5%	+2,941	▲2,544	▲23424.8%

(単位：百万円)

【BS概況】	当2Q末		前期末
	金額	増減	金額
総資産	17,152	231	16,921
負債	15,458	▲166	15,624
純資産	1,694	397	1,297

【取扱累計高及び債権買取収益】



取扱累計高及び債権買取収益とも順調に増加しており、
本業注力による収益力は急拡大中！

本日はありがとうございました。



IRに関するお問い合わせ先

株式会社ドン・キホーテ 経営企画部

〒153-0042 東京都目黒区青葉台2-19-10

TEL：03-5725-7588 FAX：03-5725-7024

e-mail：ir@donki.co.jp

IRカレンダー

第32期（2012年6月期）第2四半期決算発表（予定）

決算発表日：2012年2月6日（月）

説明会会場：野村コンファレンスプラザ日本橋（東京都中央区日本橋室町2丁目4番3号 日本橋室町野村ビル6F）

将来見通しに関する注意事項

本資料におきましては、投資家の皆さまへの情報提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。本資料における将来予想に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません。また、将来に関する記述につきましても、信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、安全性を保証するものではありません。本資料は、投資家の皆さまがいかなる目的にご利用される場合においても、お客さまご自身の判断と責任においてご利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任を負いません。

株式会社

ドン.キホーテ

Don Quijote Co.,Ltd.

